



NPO 二枚目の名刺

年次報告書 2023

ANNUAL REPORT



2023



15年をフリカエリ、これからのは仕掛けづくりに取り組む

2009年9月に立ち上がったNPO二枚目の名刺という取り組みも、スタートして15年となりました。「会社の外で何かするくらいなら、会社の仕事をしろ…」という雰囲気があったこと、当時を知る人は、決して誇張ではないと頷かれると思います。

15年たった今、「2枚目の名刺」はあたり前の選択肢となったのか。かつて見たいと思っていた未来になっているか。

サポートプロジェクトを通じて培ってきた、NPOと社会人をつなぐ機能。社会人にもNPOにも変化をもたらすプロジェクトのノウハウ。これらをどう活かし、進化させていくか。

二枚目の名刺の運営メンバーと、そして組織の外からサポートやアドバイスをくださる皆さんと一緒に、15年をフリカエリつつ、社会に変化を仕掛ける試行錯誤に取り組んでいきたいと思っています。



特定非営利活動法人二枚目の名刺 代表
廣 優樹

私たちのビジョン・ミッション

私たちが
思い描く未来
(ビジョン)

二枚目の名刺では、社会人が当たり前の選択肢として、
2枚目の名刺を持ち社会の変化を仕掛けている、そんな未来を実現します。

私たちが
取り組むこと
(ミッション)

NPO法人 二枚目の名刺は
① 社会人が2枚目の名刺を持つきっかけを作ること、
② 2枚目の名刺を持つことが当たり前となる社会の雰囲気を作ること、
③ 2枚目の名刺を持つ社会人のつながりを作ること、に取り組みます。



“2枚目の名刺”とは？

“2枚目の名刺”は、所属する組織、立場を超え、社会のこれからを創る時に持つ名刺です。社会貢献活動に限らず、これまでになかった組織外での挑戦、新たな学びの形や自分らしい社会との関わりなど、生み出される様々な変革のストーリーを丁寧に編集し、社会へ積極的に発信していきます。

“2枚目の名刺”を通じて 社会・社会人・組織の変化を 同時に実現する

2枚目の名刺を持った活動を通じて社会活動を行い、ひいては社会および自分自身の繁栄につなげていきます。その際、派遣している企業にも恩恵があるようになります。



“2枚目の名刺”を持つきっかけとなる良質な越境機会を提供する



Common Room



サポートプロジェクト

同じ意識を持つ仲間や、先進的な活動を実践する団体との出会い

様々な背景を持つメンバーによるプロジェクトの実践

社会人、NPO、行政の出会いの場であるCommon Roomに参加した後、自ら「想い」を持った団体に手を挙げて参加いただくサポートプロジェクトを開催しています。プロジェクトでは、共感(想い)を重視し、必ずしもスキル・経験を必要としません。各プロジェクトは、社会人等5~6人でチームを編成し、プロジェクトデザイナーが伴走します。

“2枚目の名刺”を持ちやすい雰囲気を社会につくる

多様な「2枚目の名刺ストーリー」を社会に届けることで、“2枚目の名刺”に興味・関心を多くの方に持っていただくようにしていきます。

2枚目の名刺
Web
マガジン

2枚目の名刺を持つ人たちの、多様でいきいきした活動のストーリーを届けるオウンドメディア。

調査・研究

2枚目の名刺を持つ意味や価値について、さまざまな角度から調査・研究を行い発信しています。

企業や行政等
との連携
プロジェクト

人材育成・組織開発の一環として、また地域課題解決の取り組みとして、企業や行政等と連携したサポートプロジェクトが増えています。

講演・セミナー

2枚目の名刺というスタイルが社会に生み出す価値についてお話しします。

数値で見る 「2枚目の名刺」



SPJ 参加人数

計画的なサポートプロジェクト実施により、
参加社会人は、年100名を越えております。

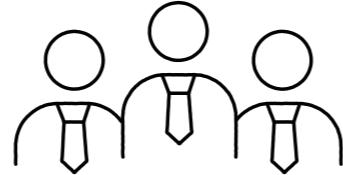
累計

1,157人

23年

169人

SPJ 実施団体数



23年は29団体、累計延べ200団体となりました。
今後もより多くの団体との活動を推進します。

累計

200団体

23年
29団体

Common Room 参加者数



CR参加者はその他の説明会を加えると、5,935人となります。今後もより多くの方の参加を促します。

Common Room 開催数



累計

100回

23年

10回

団体設立以来、23年末CRは100回を迎え、その他の説明会を加えると累計148回となります。

累計
5,205人

23年
230人

SPJ デザイナー の人数



本業や立場の異なるメンバーが、5つの事業ユニットに所属し活動しています。メンバーのほとんどが「2枚目の名刺」として組織運営に携わっています。

組織運営 メンバー の人数

58人

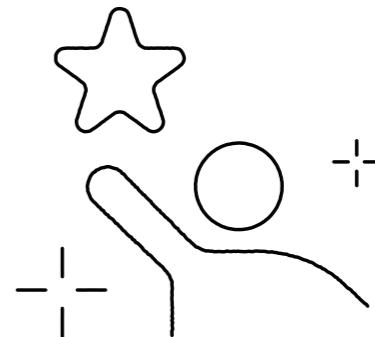
プロジェクトの伴走役であり、プロジェクトに欠かせない存在（某団体談）である「サポートプロジェクトデザイナー」。これからもTIPSの共有等を通じ、質の向上を目指します。

2023年度は29団体の皆様と共にサポートプロジェクトを実施し、累計では200団体（延べ）となりました。参加された社会人は169名。累計では1,157名となりました。今後も双方の「想い」を大切に、「2枚目の名刺」を持つきっかけとしての「サポートプロジェクト」を安定的、且つ持続性あるものにして参ります。

※注) ◎ SPJ=サポートプロジェクト ◎ 累計=2009~2023年 ◎ Common Room=団体説明会

参加者の声

参加社会人メンバー及び、参加団体から継続的にアンケートを集計し、サポートプロジェクトの質の向上を目指しています。「参加者の声」に真摯に耳を傾け、日々の活動に活かして参ります。



参加 目的



終了後



終了後

「変化・成長」
を実感した
「社会課題」
意識変わった

94% **81%**



プロジェクト成果物も大切だが
○自分の変化 / 成長を実感できた
○社会課題を自分事化できたも重要

- ・好きなこと、やりたいことはとても楽しいと実感できた。
- ・視野が広がり深まった。
- ・自分の強みを見つけることができた。
- ・やってみたいこと、挑戦してみたいことが見つかった。

参加社会人メンバー

※注)
◎ 率は、5段階評価のトップ、セカンドボックスの計
(例 良い+やや良いの計)

◎ 数値は20-23年累計 参加者 437人 / 終了後 376人

「変化・成長」
のため
93%

「社会課題」
解決のため
82%

参加目的は大きく2つに分かれる

- 利己：自分の変化/成長の為
- 利他：社会課題を解決したい為

「成果物」
満足度
82% 「団体内部
への変化」有
83%

プロジェクトでの「成果物」や「団体への影響」は高く、更に内容を充実させて行きたい。



参加 団体

終了後

※注)
・率は、5段階評価のトップ、セカンドボックスの計
(例 良い+やや良いの計)

・数値は20-23年累計 延べ75団体

- ・今後の団体の土台となる資料や考え方を残してくれた。
- ・表面的なところに終わらず、団体が抱える課題にまで踏み込んだ上でサポートをしてもらえた。
- ・団体だけではできなかったことが形になった。

「社会人メンバー」への満足度
92%

「SPJデザイナー」への満足度
92%

参加社会人メンバー並びにサポートプロジェ
クトデザイナーへの評価は高い。

23年SPJ 参加者対談

※SPJ:サポートプロジェクト

23年実施したサポートプロジェクトは29団体。その中から今回は「NPO法人ちえぶら」の代表と社会人メンバー2名、SPJデザイナーにお集まり頂き、SPJから得た「成果」「気づき」「学び」についてお話をいただきました。

参加メンバー



さっくん

(塚原優作さん)
食品メーカーに研究職で勤務。



なかきょん

(中野響子さん)
コンサルタントとして勤務。
第2子の育休中に参加。



きょんちゃん

(永田京子さん)
NPO法人ちえぶら代表。



YUKIEさん
(佐藤由紀江さん)
外資製薬会社勤務。
プロジェクトデザイナー。

Q. サポートプロジェクトに参加したきっかけ、理由は何ですか？



同じ部署の4つ上くらいの先輩で研修としてサポートプロジェクトに参加した方がいて、その先輩に「正直めっちゃしんどいけど、すごく楽しいし、今お前に一番足りないことができるよ」と言われたのがきっかけです。



私が団体として参加した理由の一つ目は更年期についてさらに広く知ってもらえる機会になるんじゃないかということ。二つ目は団体の中に新しい風が吹けばいいなという気持ち。活動を始めて今年で10年目なんですが、私にとっても団体メンバーにとっても刺激になればいいなと思って。結果的にとてもいい刺激をいただきました！ 三つ目はあわよくば業務が整理されて、団体として前進できればとも思っていて。実はその点はそれほど期待をしていなかったんですが、みなさんにあらゆる面で大きく進めていただきました！

Q. 3ヶ月のサポートプロジェクトの中でうれしかったことは何ですか？



私とさっくんは同じ「外向きチーム」として、営業活動の一環で企業の人事部の方を集めてちえぶらのセミナーをするプランニングしました。それが企画だけで終わらず、自分たちで実施までできたのがうれしかったです。



このプロジェクトは、最終報告会のときに言えなかった成果物の詳細を団体の方に伝える場として、納品会をやったんです。正直、各チームの説明を聞いていて、私が思っていた倍以上の仕事をメンバーがしていたのがわかって、かなり感動しました。ずっと伴走していたはずの私にも見えていなかったボリュームとクオリティが氷山の下に隠れていたと思ったんです。今回は本当に成果物が愛にあふれていて。それはどこかでしっかり伝えたいとデザイナーとして思いました！

Q. サポートプロジェクトに参加して自分が変化したことは？



仕事をするうえで、悩むよりもかく進めてみようと思えるようになりました。3ヵ月でここまでできたっていうスピード感を仕事でも活かして、動いた後で考えるというスタイルを取り入れたいです。それから、NPO団体との活動を通じて、いろんな社会課題があって、いろんな団体があるのを見ました。大学時代に塾講師のバイトが楽しかったので、ボランティアで小学生に勉強を教えるとか、そういう形で社会課題に貢献できたらなって今漠然と考えています。



私はこれまでプロジェクトに参画したときは、自分が仕事で培ってきたスキルやナレッジの部分で貢献するという気持ちだったんですけど、今回のプロジェクトに関しては、団体と思う気持ちやマインドに寄り添うことが助けになるのを見られたのが大きな学びになりました。これから仕事をするときにも大事にしていきたいです。



みなさん仕事や子育てをしながら団体にかかわってくださって、その様子を見て、私も楽しむことを大事にしながらも、もっと人の役に立つことに限られた命を使っていけたら素敵だなって改めて思いました。



私にとってはちえぶらさんの出会いで、更年期というあまりなじみのなかった社会課題にふれることができたのがすごくよかったです。きっと自分が当事者にならなかったら通り過ぎてしまう課題だったところ、自分ごとの一部として考える機会に恵まれて、自分の人生の知識や経験、財産になったと思いますし、今後もちえぶらさんと何かしらのご縁はつながっていくような気がしています。



「二枚目の名刺ってなんなん？」 団体活動説明会



目的

23年度の実績
(23年4月～24年3月)

参加者の声

9
回実施

参加者数

134
人

二枚目の名刺の活動内容を広く皆様に知ってもらう為に、22年1月よりほぼ毎月実施しています。
24年3月現在で計23回497名の方に参加いただいている。

丁寧な説明で活動内容がよくわかった。

トークセッションを通じて、そのミッションやビジョンが具体的な活動に落とし込まれていると感じた。



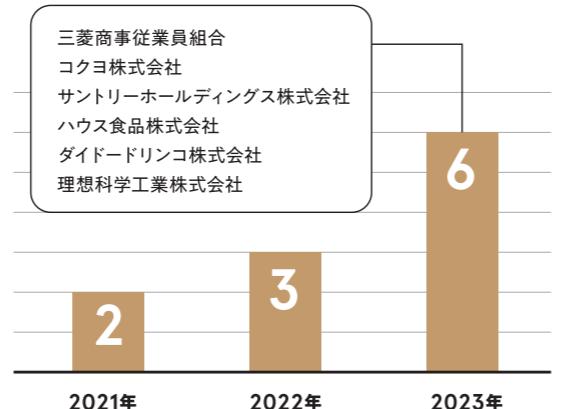
アルムナイ コミュニティ の立ち上げ

今年度から、SPJに参加された方で希望者を対象にアルムナイ・コミュニティを立ち上げています。
Slackをアルムナイの方に開放し、いろんな情報を共有する仕組みです。今後の発展をご期待ください。



2023年度の企業対応状況

当年度は、新型コロナウィルス感染拡大影響が残る中、社員層別にリスキリングやキャリア自律などに資する取組みを模索される企業様からのお問い合わせが増加し、協働(※)でのプロジェクト開催に繋がった企業数も過去最多となりました。多くの企業様から、本業以外で社会課題に触れ、初対面の参加者でチームを組み、3~4ヶ月で支援先団体の課題に本気で取り組むプロジェクト、また取組みテーマも参加者と支援先団体で決定するなど、非日常の体験が本業に戻った時に活かされると好評を頂いております。



※「協働」とは、プロジェクトを二枚目の名刺と一緒に実施することを言います。



協働企業様からのメッセージ

三菱商事従業員組合

KOKUYO

協働を決めて頂いた ポイントと実施効果

- 組合員からは、自らのスキル向上や経験を活かしたい、業務外でも何かに携わりたいという声が出ていました。二枚目の名刺では、支援先の想いの実現に取り組んでいく体験ができるということで、3年前から協働させて頂いています。
- 社員がワークとライフのキャリアの充実を見据えながらリスクや人脈形成ができ、誰でも参加できることがポイントです。また、プロジェクト体制がしっかりしており、安心して社員を派遣することができると思い、協働を決めました。
- 参加者の経験やスキルの棚卸が、社会貢献を体感することでマインドや行動変化が見られる部分がありました。

プロジェクト参加 社員の声(感想)

- 普段関わりがない社外の方と仕事をする貴重な経験
- 業務上の接点がないメンバーと知り合え良い刺激だった
- 組織として向かいたい方向性と一緒に考えて協力するという経験は、なかなか社内で体験できないことだと感じた。
- まずは試してみるのにすごく向いている仕組み
- 仕事やプライベートで柔軟に物事を考えるようになった
- 自分のスキルが役立つか、新しい環境下でどういう印象をもたらされるのか等を感じられた

二枚目の名刺を 他企業へお勧めする 場合のポイント

- 想いに共感しイチから施策を検討する経験は大きな組織では得がたく、業務で培った専門性を活かせ自己実現の場。
- 自組織の常識とは異なるものに触れ、視野を広げられる。
- 新たな分野での経験や、自ら選択して参画する体験を通じて、キャリア自律意識の醸成につながる。
- 業務で関りの少ない業界・企業と交流、人脈を広げられる。
- 単純作業ではないボランティア、今までとは異なる層の社会貢献活動への参画が見込める。
- 企画の段階から非常に親身になって相談に乗って頂いた
- 社員が腕試しする機会提供としては、ハードルも高くなく一步踏み出しやすいプロジェクト。社会との関わりを持つことで、組織の活性化を検討されている企業様には是非おすすめしたいと思います



協働をさせて頂きました企業様からも、本業を通じて経験できない体験で、思いで共感すれば誰でも参加が可能、そして組織の活性化つながると感じて頂いております。今後も、多くの企業や自治体等が抱えている課題に対し、二枚目の名刺が提供する「サポートプロジェクト」を通じお役に立てるよう取り組んでまいります。そして多くの方に「自分を社会に生かすための持つ、もう一枚の名刺。」を実感して頂ければと思います。

対談 記事

NPO法人二枚目の名刺 15周年記念座談会

「二枚目の名刺」の原点を振り返る



理事
大山みのり



代表
廣優樹



理事
南章行

見たい社会は自分で作る

創業メンバーが語る、二枚目の名刺の原点

2009年にNPO法人二枚目の名刺が産声をあげてから15年が経ちました。多くの人が生涯ひとつの企業に勤め、一枚の名刺しか持たないのが当たり前だった時代から、民間企業だけでなく公務員も副業の可能性が広がり、働き方改革、フリーランス新法の制定と、団体設立当初に見たかった世界が実現しつつあります。そんな節目の年、創成期を支えた理事の南章行、大山みのり、そして代表の廣優樹による座談会を行い、「二枚目の名刺」の誕生を振り返りながら、これから団体としてどのように歩んでいくかを探りました。

オックスフォードの寿司屋から始まった「二枚目の名刺」

南、大山、廣の出会いのきっかけはオックスフォード大学サイド・ビジネス・スクール。南と廣が同期で、その1年前に留学していたのが大山でした。南と廣が帰国直前に日本人の同期4人と現地の寿司屋で「二枚目の名刺」の原点となる「企業で働く人が非営利団体にかかるメリット」について盛り上がり、帰国直後の同窓会でもそのコンセプトを語りました。それに強く共感したのが大山だったのです。

3人ともオックスフォード留学前は「ソーシャル」にはさほど興味がなかったものの、大山は留学中にインドからきた同級生が「帰国したら貧しい人のために活動したい」と語るのを聞いて、廣と南は留学終盤のコンサルティングプロジェクトで非営利のプロジェクトに関わったことがきっかけでソーシャルな活動の重要性を痛感しました。廣は「非営利のプロジェクトが自分の枠を大きくしてくれた」と語り、それまで金融業界のみで働いてきた南

は「業界の外に出ると、こんなにいろんな人たちがいるんだ!」と開眼した思いがあったと言います。廣がそのプロジェクト遂行中に出会った人から「私、こういう名刺も持ってるんですよ」と2枚目の名刺を受け取った時の衝撃から団体名が決まったそうです。

現在の南は自ら起業した株式会社ココナラの経営に関わりながら、関連子会社のベンチャーキャピタルで代表取締役をしています。また、大山は公認会計士として個人事務所を持ちながら、ビジネススクールでの講師業や社外監査など多様な仕事にかかり多忙な日々を送っています。それでも2人とも「二枚目の名刺があったから今の自分がいる」(南)、「NPOの理事であることが自分の屋台骨になっている」(大山)と、二枚目の名刺と現在のキャリアが強くつながっていると主張しています。

make it happen 一自分が動き出せば社会は変わる!!

スタートから15年経って、時代が変化したことは3人とも痛感するところです。ソーシャルな意識や副業兼業について語っても不思議な顔をされていた頃から、手探りながらサポートプロジェクトを立ち上げ、少しずつ実績を積み上げ、今ではソーシャルや環境について意識するのが当然の世の中になり、副業兼業する人も珍しくなくなりました。大山は「こうやって時代が動いていくんだと肌で感じた15年だった」と振り返ります。廣はオックスフォード大学のレポートに登場した「make it happen」という言葉を取り上げ、「自分から動き出すと実現するものがある」成功体験を得たと言います。

2枚目の名刺を持つのが当たり前になった時代だからこそ、「持ち方がわからない人が苦しんでいるのではないか」と南は分析し、「世代によって組織と個人、どちらを大事にするかの感覚も異なる」と大山は見ています。廣は二枚目の名刺が「社会課題や新しい社会を作るための取り組み

と、それをやりたいと思っている人をつなぐ機能を担っている」と受け取っており、それを拡張していくことに使命感を感じています。時代に沿って存在意義が変わっていきますが、新たな意味を持った「二枚目の名刺」のあり方について考えていくとして座談会を結びました。

座談会のフルバージョンは
Webマガジンでご覧いただけます。

https://magazine.nimaime.or.jp/origin_nimaime/



2024年
9/28(土)

二枚目の名刺 15周年記念イベント

会場：渋谷ソラスタ

※詳細は期近にHPやSNSでご案内予定

二枚目の名刺 15年の歩み



プロジェクト参加者数1157人(3月)
コモンルーム200回突破
コモンルーム参加者5935人

計算書類

● 活動計算書（2023年4月1日～2024年3月31日）

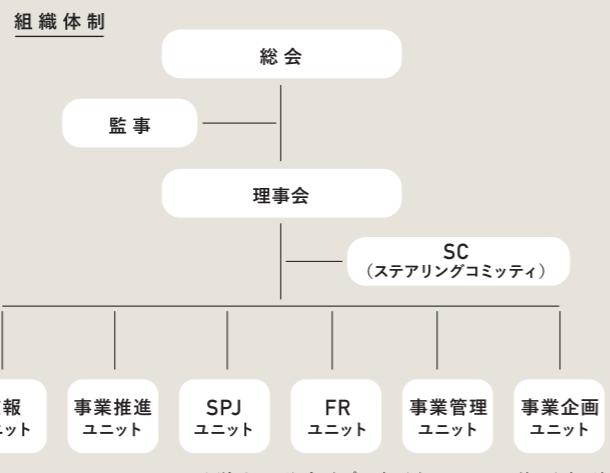
経常収益		経常費用
受取寄付金	31,000	事業費
NPO等支援事業収益	12,674,000	支払報酬 3,939,310
受取利息	60	その他経費 3,194,722
		管理費
		外注費・支払報酬 1,380,350
		租税公課 158,400
		その他経費 779,062
継続収益計	12,705,060	経常費用計 9,451,844
当期経常増減額		3,253,216
法人税、住民税及び事業税		778,908
前期繰越正味財産額		4,858,393
次期繰越正味財産額		7,332,701

● 貸借対照表（2024年3月31日現在）

資産の部	負債の部
流動資産	流動負債
現金預金 9,134,300	未払費用 2,659,215
その他流動資産 1,799,000	未払法人税等 778,900
	預り金 4,084
	未払い消費税 158,400
	負債合計 3,600,599
正味財産の部	
	前期繰越正味財産額 4,858,393
	当期正味財産増減額 2,474,308
	正味財産合計 7,332,701
資産合計 10,933,300	負債及び正味財産合計 10,933,300

団体概要

団体名称	特定非営利活動法人 二枚目の名刺
設立	2009年9月（2011年2月東京都の認可を受けてNPO法人化）
代表	廣 優樹
事業内容	1 NPO法人との協業事業 2 企業・行政との連携によるパラレルキャリア普及事業 3 調査・研究事業 4 メディア事業
住所	〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷一丁目31番1-504号
WEB	http://nimaime.or.jp
Facebook	https://www.facebook.com/Nimaimenomeishi
Twitter	https://twitter.com/nimaimenomeishi



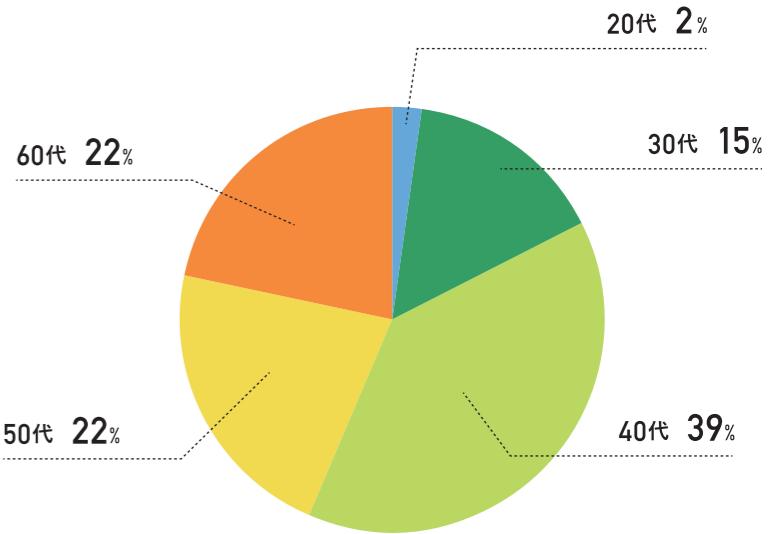
二枚目の名刺メンバーの属性

二枚目の名刺では、2024年4月10日時点で57人の運営メンバーが活動しています。年代も業種もさまざまなメンバーが、それぞれの「2枚目スタイル」を体現しています！多様なメンバーの内訳を、データでご紹介します！

年齢構成

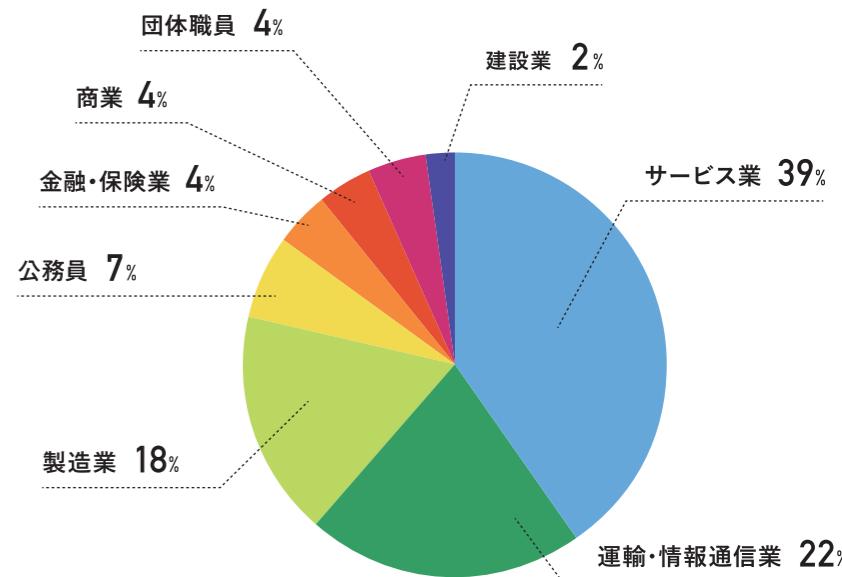
全体のボリュームとしては40～60代が多めです。

最近では新社会人や学生の方にも興味を持っていただいているます。



業種

「サービス業」「運輸・情報通信業」「製造業」の順に多くなっています。公共的な仕事だから、公務員や団体職員が多いわけではないのが、二枚目の名刺らしさと言えます。



いかがでしたでしょうか？

ぜひ皆さんも、二枚目の名刺運営メンバーに参加してみませんか？ホームページ、メールなどでお気軽にお問い合わせください。



二枚目の名刺の活動への参加方法

二枚目の名刺の活動への参加にご関心のある方は、団体説明会への参加をお勧めします。

サポートプロジェクトへの参加

サポートプロジェクトに参加を検討していただいている方はHPやFB、Peatixでの情報を随時ご確認ください。

HP <https://nimaime.or.jp/projects>

FB www.facebook.com/Nimaimenomeishi/
Peatix peatix.com/group/18080



運営メンバーへ応募

サポートプロジェクトのデザイナーをご希望されたり、また、私たちの活動そのものを一緒に担っていただくことを考えておられる方は、直接メールをお送りください。

求人ページ <https://nimaime.or.jp/recruit>



メルマガ「二枚目通信」

最新のイベント情報や活動報告、また、2枚目の名刺に係る参考情報などを、月1～2回定期的におとどけしております。登録は右のQRコードよりお願いします！



賛助会員(二枚目会員)・寄付のご案内

2枚目の名刺を持つ機会の提供、また、2枚目の名刺を持つことが当たり前になる社会を作っていくため、資金面で応援いただける方を募集しています。寄付いただいた方には、年次報告書の送付(年1回)を行わせていただきます！

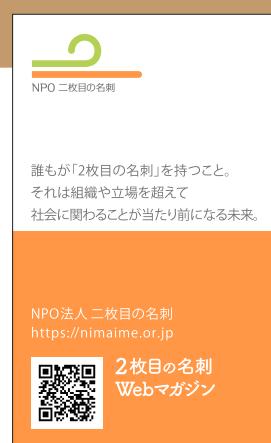
二枚目会員
向け特典

- 年次報告書の送付(年1回)
- サポートプロジェクト報告会の見学
- アンバサダー名刺の発行(任意)※

※ 別途、制作費等をいただきます



○ アンバサダー名刺 見本



2枚目の名刺
Webマガジン



二枚目会員や寄付についての詳細は右記のQRコードから

